

5月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 舘野 健一

行った主な活動

摘芯作業

5月は新梢の伸長が進み、棚面が混み合い始めたため、花穂の位置と葉数を確認しながら摘芯を行った。伸び過ぎた先端を抑えることで養分を花穂や必要な葉に回し、今後の誘引・防除が行いやすい状態を意識して作業しました。樹勢の強弱を見ながら、摘芯位置を慎重に判断した。



花詰作業

開花前後の花穂を確認し、房づくりの基礎となる花詰作業を行った。不要な部分や混み合う部分を整理し、着粒後に房型が整いやすくなるよう管理した。花穂の長さや粒の付き方は樹ごとに差があるため、残す位置を確認しながら丁寧に作業した。



活動を行った感想など

5月は新梢管理と花穂管理が本格化し、摘芯作業と花詰作業がその後の房づくりや品質に大きく関わることを学んだ。摘芯では、単に伸びた枝を止めるだけでなく、棚面の明るさ、風通し、花穂への養分の流れを考える必要があった。花詰作業では、最終的な房の形をイメージしながら、どの部分を残すか判断する難しさを感じた。反省点として、樹勢や花穂の状態によって判断が変わるため、作業前後の写真と記録を残し、指導農家さんの基準を整理していきたい。

今後の目標など

今後は、摘芯、誘引、花詰、摘粒、防除までの流れを一連の管理として理解し、時期を逃さず作業できるようにしたい。特に、花穂管理後の着粒状況、房の混み具合、葉の病害、雨よけ内の湿度を継続して観察し、品質のよいブドウづくりにつなげる。あわせて、作業ごとの目的と判断基準を記録し、自分の就農後にも再現できる技術として身につけることを目標とする。

